

■都市課題

市民参加によるスマートシティの実現

■解決方策

- ①デザインの改良による市民との接点の強化
 - 市民参加オンラインツール「Decidim」の刷新
- ②デジタル技術を活用した市民との接点の強化
 - 先進技術(VR)を活用した市民参加型まちづくり
- ③多様な分野のデータ連携の効率化とわかりやすい情報提供
 - データ連携基盤「FIWARE」の機能改良

■KPI

① Decidimへの意見投稿件数	2,000件	R7年度
② リノベーションを施した公共空間に対する満足度	80%	R7年度以降
③ データ連携の効率化による時間外勤務時間数の減少	40時間/年	R7年度

■実証実験の概要・目的

- 【①デザインの改良】 スマートフォンで気軽に参加できる市民参加オンラインツールDecidimの刷新
- 【②デジタル技術の活用】 3D都市モデルを活用したVR現況モデルを構築し、Decidimの連携による市民参加型まちづくり
- 【③わかりやすい情報提供】 データ連携の効率化を行い、市民への情報提供など、市民参加につながる環境を構築するための時間を確保

■実証実験の内容

①デザインの改良による市民との接点の強化

- ✓ 24時間365日いつでもどこでもスマートフォンでDecidimの閲覧、意見投稿をしやすいようデザインに刷新
- ✓ テーマに応じたわかりやすい情報提供
- ✓ Decidim改良前後のユーザー満足度や使用状況のアンケートを実施



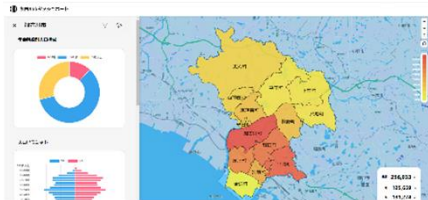
②デジタル技術を活用した市民との接点の強化

- ✓ 3D都市モデルを活用したVRモデルの構築
- ✓ まちづくりWSにおける市民参加オンラインツール「Decidim」の活用による市民等とVR再整備モデル(素案)の共有・活用



③多様な分野のデータ連携の効率化とわかりやすい情報提供

- ✓ データ連携業務を効率化する仕組みの構築
- ✓ 人口統計ダッシュボードの構築とオープンデータ活用検討



■実証実験で得られた成果・知見

- ①
 - ✓ デザインを改良することで、コメント数、アクセス数、ページ滞在時間が増加し、意見表明やアイデア投稿がしやすくなることを確認。
 - ページ滞在時間が平均1分47秒から4分14秒と長くなり、内容への興味関心が高まったことを確認。
 - ✓ 市の主要なテーマに対するアイデアや意見が投稿できることで、市民や民間事業者、行政などが一体となってまちづくりを進める機運醸成につながる今後の可能性を確認。(総合計画の作成、防災分野、観光分野、デジタルリテラシーの向上などでの活用を検討)
- ②
 - ✓ VR再整備モデル(素案)を示すことで、各自の考えを見える化することができワークショップ参加者の意見表明が促進されることを確認。
 - ワークショップ参加者の満足度は95%
- ③
 - ✓ 約44時間/年の作業時間の削減により、業務効率化をはじめ、オープンデータの充実化や利活用の推進が図られることを確認。
 - ✓ 人口統計ダッシュボードによる、統一したフォーマットで情報を可視化することで、市民にわかりやすい情報を提供することができ、まちづくりに対する意見の高度化が図られることを確認。

■今後の予定

仕事や育児等で時間に余裕のない人も24時間365日、いつでもどこでもアイデアや意見をオンラインで気軽かつ容易に表明できる環境を活用し、まちの状況をわかりやすく情報提供することで、市民参加を促し、多様な意見による市民中心の課題解決型スマートシティを実現し、スマートサービスが自然と創発されるエコシステムが形成される仕組みを目指す。

加古川駅周辺の再整備に向けたワークショップ、令和9年度からの総合計画の策定、防災分野での高校生の参加によるワークショップの実施にあたり、構築した仕組みを有効活用しながら、より参加を促すことや集まった意見やアイデアを有効活用するため、デジタルクイパビリティ(デジタルツールを活用する力)のさらなる向上を目指す。